



2014 年 年次報告記者会見 ボッシュはあらゆる事業セクターで 売上高の成長を示し、新事業年度を始動 ボッシュは技術面と産業面での幅広いノウハウを駆使し コネクテッド ワールドを構築

2014 年 4 月 30 日

PI 8532 RB Zi/Na

- ▶ 2013 年の利益率は 6% (特別な影響を除く)
- ▶ 今年最初の 3 カ月で売上高は約 7% 増加
- ▶ 2014 年の成長率は 3~5% の見込み
- ▶ センサー テクノロジー、ゲートウェイ テクノロジーにおけるマーケット リーダー
- ▶ 新しいインターネット ベースの市場セグメントを開拓
- ▶ 2016 年までにドライバー アシスタンス システムで 10 億ユーロの売上高を達成
- ▶ 2020 年までにアジア・太平洋および北中南米地域で売上高を倍増

*注意: 会計方針の変更のため、今回公表する 2013 年のデータと昨年発表した 2012 年データは、限定的な範囲での比較になります。比例連結を適用しないという決定に関連してくる会社は、主として家電・住宅機器の Bosch Siemens Hausgeraete GmbH (BSH) と ZF Lenksysteme GmbH です (連結売上高: 約 73 億ユーロ)。

シュトゥットガルト – ボッシュ グループは順調な売上増とともに、新しい年のスタートを切ることになりました。第 1 四半期に売上高は約 7% 増加し、為替レートの影響を調整した場合には、その伸びは約 10% となりました。ボッシュは今事業年度の売上高について、3~5% の成長を見込んでいます。ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナーはボッシュの年次報告記者会見でこう述べました。「当社は従来の事業への取り組みを継続しつつ、新分野の事業を開拓したいと考えており、当社の広範な技術的・産業的ノウハウも活用していく所存です」。ボッシュの自動車機器テクノロジー セクターは前年の力強い業績を引き継ぎ、2014 年第 1 四半期も目覚ましい成長を遂げました。ボッシュで最高財務責任者を務めるシュテファン・アーセンケルシュバウマーも次のように話しています。「他の事業セクターにおいても明らかに成長を見てとることができました。地域別では、特にアジア・太平洋での事業が伸びています」。ボッシュは今後もこの勢いに乗り、2014 年の業績のさらなる改善を目指して事業を展開していきます。

センサー テクノロジー – 未来のテクノロジーをけん引する世界のマーケット リーダー
今後、インターネットに接続できる製品とインターネット ベースのサービスが、ポッシュの将来における売上高の成長を左右する大きなポイントになっていきます。

ポッシュは、ハードウェアのノウハウと広範な技術的専門知識を兼ね備えているので、こういった方向に進む準備は十分にできているとデナーは確信しています。

「ポッシュの伝統的な強み(革新力、高い品質水準、グローバル プレゼンス、ポッシュの企業文化の総合的な力)はコネクテッド ワールドにおいても大きな戦力となります」(デナー)。また、インターネットを利用したモノのネットワーク化でカギとなる技術「[マイクロメカニカル センサー\(MEMS\)](#)」の分野においても世界のマーケット リーダーとなっているポッシュは、コネクテッド モビリティ、コネクテッド インダストリー、コネクテッド エネルギー システム、さらにコネクテッド ビルディングに関するソリューションを生み出すことを戦略的な目標に掲げています。

インテリジェントなセンサー - モノのインターネット化の基礎

センサーは、日常生活で新しい形の技術支援を可能にします。[センサー技術](#)の戦略的な重要性について説明しながら、デナーは次のように述べました。「自動運転やスマートホームにおいても新しい品質水準の快適性、安全性、効率性が広がりつつあり、ポッシュはこうした課題に向けて技術的条件を次第に整えています」。ポッシュは 2013 年に 10 億個のセンサーを製造し、本年はさらに 30%の増産を計画しています。技術的進歩の次の段階では、インテリジェントなセンサー、つまり無線インターフェースとマイクロコントローラーを備えたセンサーが核となります。このセンサーでは、例えば関連データをインターネット経由でモバイル端末に送信できるようになります。「センサーを装備した機器はスマートフォンにとどまることなく、あらゆる『スマート』なモノにインターネット接続可能なセンサー テクノロジーが搭載されるようになるでしょう」(デナー)。

自動運転 – 2020 年からはより高速での走行も可能に

センサー技術は、未来の運転のための大きな技術的前提条件の 1 つでもあります。最新のドライバー アシスタンス システムには、超音波センサー、レーダー センサー、そしてビデオ センサーが必要となってきたからです。ポッシュは今年、前年比 25%増となる約 5,000 万個の超音波センサーを製造し、レーダー センサーとビデオ センサーの製造個数も 200 万個以上に倍増する予定で、ドライバー アシスタンス システムの売上高は 2016 年には早くも 10 億ユーロを突破する見込みです。さらに、ポッシュは 2020 年までに[高速道路においてより速い速度での自動運転](#)を実現することを目指しており、今後 10 年の間にはオートパイロット機能を用いた完全な自動運転が可能になると考えています。「自動運転は人命を守る技術であると同時に、運転に飽きてきたような局面でドライバーを支援することで、ドライバーの興味も引き出すことができるだろうと考えています」(デナー)。

ネットワーク化された道路交通網 – 新しいサービス

自動運転には、[ネットワーク化された交通網と Car-to-x コミュニケーション](#)が必要になります。2025 年までには新車のほぼすべてに無線データ通信技術が採用されることになると考えられています。もちろん、現時点においても車両をネットワークに接

続し、広範囲なサービスを利用することができます。ポッシュは 2013 年に[エマージェンシーコールシステム「eCall」](#)の提供を開始しました。このシステムでは、事故が起きたことをセンサーが検知すると、自動的にエマージェンシーコールが発信されます。ポッシュの監視センターは昨年、約 3 万件のエマージェンシーコールの対応にあたりました。さらに、テレマティクス分野においてもポッシュは[リース会社や保険会社向けにフリート管理サービス](#)を提供しています。「私たちが考える『路上におけるネットワーク化』には、効率性と快適性だけでなく、より安全な運転という意味も含まれています」(デナー)。

2020 年までにアジアおよび北中南米地域で売上高を倍増

ポッシュにとってアジア地域は、引き続き最大の成長を見込める地域で、2020 年までには売上高を 2 倍にすることを目標に掲げています。そのため、資本支出は高い水準で維持し、2010 年から 2014 年におけるポッシュのこの地域への投資額は約 33 億ユーロに達する見込みです。また、北米と南米での売上高も今後 10 年間で倍増させたいと考えています。製造能力の拡張に加え、ポッシュは現地での開発活動も強化しつつあります。例えば、メキシコのグアダハラでは、新たに開発&ソフトウェアセンターの建設が進められています。さらに、アフリカでも今後数年間で売上高の大幅増を目指しており、2014 年にポッシュはアフリカ大陸でのプレゼンスをいっそう強める予定です。一方の欧州はいまだに弱含みな経済情勢ではありますが、ポッシュは市場を上回る成長を目指しています。こうしたグローバルプレゼンスの拡大に伴い、ポッシュは現地の顧客のニーズに合った製品やサービスの開発に尽力しています。

2013 事業年度 – 売上高と利益の増加

2013 事業年度のポッシュの売上高は 3.1%増の 461 億ユーロに達しました(*前年の為替調整後の数値である 447 億ユーロを基に計算)。公表する売上高の数値は、会計方針の変更による連結の影響や前年の M&A に加え、太陽光発電事業からの撤退も考慮されています。為替調整後の売上高は 6.3%増加しました。ただ、ユーロ高によって約 15 億ユーロにおよぶ為替レートのマイナスが響き、売上高の数値は大きく割り引かれました。太陽光発電事業でのマイナス分を除くと、ポッシュの支払金利前税引前利益(EBIT)は 6%、つまり 28 億ユーロとなりました。業績の改善に特に大きく寄与したのは、自動車機器テクノロジーセクターにおける明るい進展です。「コスト削減にむけてさまざまな施策を導入し、EBIT8%という目標に向けて大きく前進しました」(アーセンケルシュバウマー)。太陽光発電事業での 13 億ユーロという特別負担を含めた場合、EBIT は 3.2%増になります。ポッシュはソーラー エネルギー事業部の業務を打ち切り、太陽光発電事業の大部分を売却することにしました。この残りの事業の売却については本年上半期中には完了する予定です。

2013 年に従業員数が増加 – 2014 年には従業員数をさらに増やす予定

ポッシュは 2014 年に、主にアジア・太平洋の成長地域で従業員数を増やす必要性が高くなると考えています。今年度は世界で合計約 9,000 人の大学卒業者を雇用する予定で、ドイツ国内においては約 800 人の大卒者の雇用を計画しています。また、ドイツ国内での新規の職業訓練生の数は前年と同様の約 1,400 人となる予定です。2013

年のボッシュグループの従業員数は約 8,500 人増加し、28 万 1,000 人となりました (*前年の調整済みの数値は 27 万 3,000 人)。

自動車機器テクノロジー – 世界の全事業部が力強く成長

2013 年の自動車機器テクノロジー セクターの売上高は 6.7%増(為替調整後は 10.3%増)の 306 億ユーロに達しました。EBIT は 24 億ユーロ、EBIT 利益率は 7.7%で、ともに前年を大きく上回りました。

産業機器テクノロジー – パッケージング システムの売上高は 10 億ユーロ

2013 年の産業機器テクノロジー セクターの売上高は前年比 9.2%減(為替調整後は 6.5%減)の 68 億ユーロとなりました。困難な経済情勢は、特にドライブ & コントロールテクノロジー事業部を直撃しました。それとは対照的に、[パッケージング テクノロジー事業部](#)はプラスの成長を遂げたものの、産業機器テクノロジー セクター全体では、EBIT 利益率はマイナス 1.2%、EBIT は 8,300 万ユーロの赤字となりました。

エネルギー・建築関連テクノロジー – スマートヒーティングのためにネットワーク接続された各種製品

エネルギー・建築関連テクノロジー セクターの売上高は 3.9%増(為替調整後は 5.9%増)の 46 億ユーロに達しました。このセクターの売上は約 1 億 600 万ユーロ増加し、EBIT 利益率は 2.3%となりました。特に好調だったのは、[サーモテクノロジー事業部](#)です。

消費財 – 革新的な電動工具のマーケットリーダー

2013 年の消費財セクターの売上高は 41 億ユーロに達しました(注:会計方針の変更により、この数値には電動工具事業部のみの売上高と、その他いくつかの売上高が複合的に含まれています)。為替調整後の売上高は前年比の 2.9%増ですが、名目ベースの売上高はわずかにマイナスとなりました。消費財セクターの EBIT 利益率は 10.4%、EBIT は 4 億 1,500 万ユーロで、これには合併会社の Bosch Siemens Hausgeraete GmbH(BSH)の税引後利益も含まれています。この業績を抜きにしても、この事業セクターの EBIT 利益率は大変希望が持てるものとなりました。

欧州 – 困難な経済情勢下での成長

欧州では、依然として続く困難な経済情勢下にもかかわらず、ボッシュの売上高は増加しました。この地域でのボッシュの売上高は 2.2%増(為替調整後は 2.9%増)の 255 億ユーロに達し、ドイツ国内の売上高も若干増加しました。2013 年のボッシュの欧州への投資額は 16 億ユーロに達しました。特に東ヨーロッパで現在、製造能力の拡張を続けています。なお、昨年ドイツ国内への投資額は 9 億ユーロ超となりました。

北中南米地域 – 北米では力強い成長、南米では復調傾向

北中南米地域では、2013 年の名目ベースでの売上高に大きな地域差が見られました。北米でのボッシュの売上高は、3.5%増(為替調整後は 6.8%増)の 78 億ユーロに達しました。この数字は部分的に、自動車生産の増加が反映されています。対照的に、南

米市場での売上高は 3.6%減の 17 億ユーロですが、為替調整後の売上高は 8.9% 増となりました。また、2013 年の北米および南米への投資額は約 2 億 8,000 万ユーロでした。

アジア・太平洋 – 中国での成長、為替の大きな影響

アジア・太平洋地域でのボッシュの売上高は 5.8%増(為替調整後は 13.8%増)の約 111 億ユーロに達しました。特に中国の成長市場では、自動車および産業機器テクノロジーへの需要が昨年 1 年間で大幅に増加しました。東南アジアでも、自動車機器テクノロジーへの需要が高くなりました。ただ、インドは思わしくない経済情勢が響き、事業の発展は予想を下回ることになりました。これは日本についても同様です。ボッシュは 2013 年に、アジア・太平洋地域で再び多額の投資を行いました。特に自動車コンポーネントの製造能力の拡張に焦点を当て、約 6 億 2,000 万ユーロを投入しました。

研究開発費は依然として高水準

ボッシュは昨年、売上高の 10%にあたる約 45 億ユーロを研究開発費として投入しました。また、2013 年の 1 年間だけで、ボッシュの研究者は 5,000 件近い特許を申請しましたが、これは 1 就業日あたり約 20 件のペースに相当します。今年も引き続き研究開発能力の拡充を予定しており、2014 年末までにボッシュが雇用する研究・開発に携わる従業員数は約 4 万 5,000 人に達する見込みです。例えばアジア・太平洋地域では、さらに研究者の数を 2,000 人以上増やす予定です。また、ボッシュはシュトゥットガルト近郊のレニンゲンに新しい[研究開発・先端エンジニアリング センター](#)を設置し、ドイツ国内の革新力の強化にも努めています。

最先端の研究を維持 – 産業用途にも迅速に応用

ボッシュの取締役会で研究開発を担当するデナーは、革新力を推進する施策への積極的な参加を呼びかけると同時に、施策の立案者はより目標を高く持たなくてはならないと述べました。ドイツは GDP の 3%近くを研究に投入しており、この達成には公共セクターよりも民間セクターがより大きな役割を果たしてきました。デナーは、大学が慢性的な資金不足に陥っていることを悲観し、建物の維持費をまかなう資金すら十分でない場合もあると語りました。デナーによると、それが引き起こす結果は明白で、トップクラスの研究者はドイツを去り、他の国の研究機関で研究を続けているとのこと。デナーはさらに続けて「研究開発に関して、ドイツやその他の欧州諸国は世界の先進諸国の水準に引き上げなくてはなりません」と述べ、財政支援は何よりもまず基礎研究を支える必要があるが、産業用途にも迅速に応用できるようにしなくてはならないとも話しました。「一流の大学は、その大学がある地域をより活性化する存在となり、企業も間接的にその恩恵を受けることになります」。

ボッシュ自身も 250 校の大学と研究面で提携し、積極的に活動を続けています。

報道用画像: 1-AE-12654, 1-CC-18794, 1-BST-19182, 1-CC-19436,
1-UBK-19968, 1-GS-20000-e-n, 1-GS-20001, 1-GS-20007, 1-RB-20112,
1-RB-20113, 1-RB-20114, 1-RB-20115, 1-RB-20116, 1-RB-20117,
1-RB-20118, 1-RB-20119, 1-RB-20120-e-n

報道関係対応窓口:

René Ziegler

電話:+49 711 811-7639

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディング・カンパニーです。2013年の従業員数は約281,000人、売上高は461億ユーロを計上しています(注: 会計方針の変更のため、今回公表する2013年のデータと昨年発表した2012年データは、限定的な範囲での比較)。事業は自動車機器テクノロジー、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbHとその子会社約360社、世界約50カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売、サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業展開しています。この開発、製造、販売、サービスのグローバル・ネットワークが、ボッシュのさらなる成長の基盤です。

ボッシュは2013年に約45億ユーロもの金額を研究開発に投資しました。さらに全世界では5,000件以上の国際特許の基礎特許(第一国出願)を出願しています(1日あたり平均20件の出願数)。私たちは革新的で有益なソリューションを提供し、そのすべての製品とサービスを通して、人々を魅了し、人々の生活の質を向上させることを目的にしています。この方針に基づき、ボッシュは全世界において人と社会に役立つ革新のテクノロジーを提供し続けていきます。それこそが「Invented for life」です。

ボッシュの起源は、1886年に創業者ロバート・ボッシュ(1861~1942)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbHの独自の株主構造は、ボッシュ・グループの財務上の独立性と企業としての自立性を保証するものです。「株主(利益配当)」と「経営(議決権)」が完全に分離した企業形態によって、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbHの株式の大半は非営利組織である公益法人「ロバート・ボッシュ財団」(持株比率92%、議決権なし)が保有しています。議決権の大部分は株主の事業機能実行機関である共同経営者会「ロバート・ボッシュ工業信託合資会社」が保有しています。残りの株式と議決権は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbHが保有しています。

さらに詳しい情報は www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト(英文) www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス(英文)、ツイッター <http://twitter.com/BoschPresse> を参照してください。